



### 全国学力・学習状況調査（4月8日実施）

この調査は、国語と算数について基礎的・基本的な知識、技能の力を問う問題 A と基礎的・基本的な知識や技能を生かして解く力、対応力、問題解決能力を問う問題 B の学力調査と、生活習慣や学習環境などについての質問（85項目）から構成されています。国語 A、B と算数 A、B の全体の平均正答率を見ると、4つの学力調査全てが全国の平均正答率を上回っていました。また、東京都との比較では、[算数 A] が同率でしたが、その他はすべて東京都及び全国を上回っていました。さらに、各領域を詳細に表したものが下記の表です。

※四角囲みは東京都と比較し同等もしくは上回った正答率（%）です。

国語	関心・意欲・態度			話す・聞く			書く			言語			読む		
	上小	東京都	全国	上小	東京都	全国	上小	東京都	全国	上小	東京都	全国	上小	東京都	全国
A				<b>74.7</b>	72.4	69.2	<b>66.8</b>	61.7	60.6	<b>80.1</b>	79.1	78.0	<b>75.1</b>	72.7	70.7
B	<b>42.5</b>	42.9	41.7	<b>71.6</b>	66.8	64.9	<b>53.5</b>	55.3	53.4				<b>55.1</b>	51.9	49.2

算数	数と計算			量と測定			図形			数量関係		
	上小	東京都	全国	上小	東京都	全国	上小	東京都	全国	上小	東京都	全国
A	<b>85.0</b>	82.2	80.6	<b>72.6</b>	72.8	68.8	<b>81.1</b>	82.5	81.8	<b>80.0</b>	82.3	79.6
B	<b>60.6</b>	55.8	52.8	<b>58.9</b>	48.8	47.0	<b>25.3</b>	19.2	13.2	<b>48.8</b>	43.4	40.0

国語の A は全国及び東京都より全て上回っていますが、B の「書く」は東京都より 1.8 ポイント低い正答率でした。

#### 〈国語の課題：書く能力〉

自分の考えを相手に文字で伝えるには、何をどう表現すれば理解してもらえるか考えることが大切です。そのため、①文章全体の構成を考える力②意見の理由や根拠となる資料等を引用する力③必要な内容を整理する力が求められます。

#### 〈書く能力向上への指導の改善方法〉

① に対する指導の工夫として、自分の考えを一貫して述べられるように指導し各段落で書く内容を考えられるようにします。また、冒頭部や終結部の書き方の工夫ができるよう日常の授業の中でも意図的に位置づけます。②では、説得力のある自分の考えを伝えられるために、客観的な資料等を根拠とした文章や語句を引用できるよう指導します。その際、引用するものが自分の考えを補説する内容であるか、目的を明確にするよう助言します。③では、具体的な事実の取捨選択と自分の意見、感想を区別してまとめられるよう、見極める視点をもつよう指導します。文章をまとめる際には、目的や意図に応じて要点をまとめたり、さらに詳細を追加したりできる活動報告や発表の場を定期的に設定します。

算数では B より A が全国、東京都を下回っている領域が多く、国語とは逆でした。A では主に図形と数量関係が下回っていました。ここでは図形と数量関係について記載します。

#### 〈算数 A の課題①図形〉

図形（多角形や正多角形）の性質を知り、それを用いて図形を調べたり構成したりして平面図形を理解する力が求められます。

#### 〈①図形への指導の改善方法〉

様々な正多角形を構成する活動を通して正多角形の特性を見出し、理解を深めるよう指導します。具体的には授業で図形の構成・分解などの作業を繰り返し実施し、特性の理解を深めるように工夫します。

#### 〈算数 A の課題②数量関係〉

数量の関係性を表す式について理解し式を用いる力と、目的に応じて資料を集めて分類整理し表やグラフを用いて分かりやすく表したり、特徴を調べたりできる力が求められます。

#### 〈②数量関係への指導の改善方法〉

未知の数量を□などの記号で立式したり図に表すことと関連付けたりできるように指導します。立式するときには数量の関係性に気付けるよう、文脈理解を深められる発問等の工夫をします。その際、式からどのような問題場面や図が想像できるか話し合いの時間を定期的に設定します。また、資料を二次元表に整理分類し、そこから情報を読み取れるようにするため、各欄の意味が理解できるよう「縦の項目」「横の項目」の説明をするとともに児童間で話し合う場を設けます。さらに、資料を的確に分類できたかは合計欄が関連していることを理解できるように、資料の数と合計欄の数が同数になることを表作成時に説明するなど、関連性に着目できるようにします。

#### 【質問紙による意識調査結果】

授業内容の理解、学習内容の定着につながる「家で学校の授業の予習をしていますか」「家で学校の授業の復習をしますか」では全国及び東京都と比較して肯定的な回答が 1.0～6.8 ポイント下回っていました。予習・復習の習慣化を進めるとさらに A 基礎的・基本的な知識、技能の向上とそれらを生かした B 対応力、問題解決能力の向上が期待されます。そのため、御家庭との連携をさらに深めて参ります。また、「普段（月～金）、1日どれくらいの時間、読書をしますか」では、全国及び東京都より肯定的な回答が 4.3～5.7 ポイント上回っています。これは継続して実施している読書ボランティアによる読み聞かせ、読書旬間の取組、朝読書等の成果と捉えております。

### 東京都児童・生徒の学力を測るための調査（7月6日実施）

この調査には、国語、社会、算数、理科についての問題と児童質問紙調査があります。4教科は学習指導要領の内容に基づいた事項と読み解く力に関する事項をペーパーテスト形式で調査し、学習や生活に関する意識については質問紙形式で調査しました。調査により本校の課題や解決策を明確にし、児童一人一人の学力の向上を図ることが目的です。

正答率（%）

教 科	関心・意欲 態度		思考・判断・表現 (国語:話す・聞く)		技能 (国語:書く)		知識・理解 (国語:言語)		読む	
	上小	東京都	上小	東京都	上小	東京都	上小	東京都	上小	東京都
国語	<b>94.0</b>	94.6	<b>71.0</b>	71.2	<b>70.8</b>	72.7	<b>63.8</b>	59.7	<b>68.3</b>	65.7
社会	<b>91.7</b>	89.1	<b>80.2</b>	75.5	<b>78.6</b>	78.2	<b>62.8</b>	66.4		
算数	<b>93.5</b>	92.4	<b>56.5</b>	50.3	<b>72.5</b>	66.0	<b>70.7</b>	65.6		
理科	<b>94.6</b>	93.2	<b>65.8</b>	66.5	<b>56.3</b>	62.1	<b>55.0</b>	66.5		

今年度の結果を見ると、本校の正答率は多くの内容で東京都の数値と比較して上回っていました。国語の知識・理解（+4.1%）、社会の思考・判断・表現（+4.7%）、算数の技能（+6.5%）では特に大きく上回っていることが分かります。日頃から授業や家庭学習において、漢字の読み書きや計算などに繰り返し取り組んでいる成果が表れていると考えられます各問題の結果から本校の課題を分析してみました。（その詳細データは掲載していません。）

#### 【国語】

話す・聞く能力の設定で東京都の数値より正答率が顕著に低いものがありました。（本校は53.6%・東京都は62.8%）メモを取りながらグループが話し合っている音声を聞くという聞き取りの問題でした。話の中心となる必要な情報を聞き取るべき内容として判断し、メモを取りながら聞くことができなかったのだろうと考えられます。メモを取りながら話を聞く場面を設定し、相手が伝えたいと思っている大事なこと（「いつ」「だれが」「なにを」等）に着目させることで、話の内容を的確に捉えられるように指導していきます。

#### 【社会】

社会の4つの観点の中で唯一東京都の正答率より低かった観点は、知識・理解でした。東京都の地理的位置と47都道府県の名称と位置について理解しているかを問う問題です。東京都や47都道府県の地理的位置について正しく理解していなかったものと考えられます。ただ都道府県名やその位置を覚えればよいというものではありません。その土地の地形や気候と関連させながら、人々の生活や産業、交通網の発達等について学習していくことが大切です。また、東京都の特色を学習する単元の他にも繰り返し調べたり確認したりすることで、学習の定着を図っていきます。

#### 【算数】

どの観点も東京都の正答率より1.1～6.5%高い数値でした。習熟度別少人数指導や学力支援講師の活用等により、一人一人の学習状況に応じた指導の成果が出ていると考えられます。一方、上の表にはありませんが各設問の正答率を分析すると、取り出した複数の情報を比較・関連付けて読み取る力に課題があることが分かりました。例えば基石をある法則で並べていったとき、並べる基石の数が何個になるかという2つの数の関係性を読み取る問題です。東京都の正答率に比べて7.8～10.6%下回っていました。変化する2つの数量を表に表し、それらの関係について読み取れなかったものと考えられます。児童自らが数量の関係を見だし、それが他の場合でも成り立つかどうかを予想したり確かめたりする活動が大切です。関係性を見い出せるように問題設定や板書等、指導を工夫していきます。

#### 【理科】

理科に対する興味・関心は高いようです。観察・実験の技能（-5.8%）と自然事象についての知識・理解（-11.5%）に関しては、東京都の正答率より低い数値でした。正答率の低かった問題を見ると、安全に実験を行うための方法や方位を調べる道具の名称を理解しているかをみる基本的な内容でした。実験を安全に行う方法や道具の使い方を理解させるには、実感を伴って理解させる指導の充実が必要です。児童自らの予想に基づいて実験の計画や方法を工夫させるとともに、興味・関心をもって追求する活動を通して、基礎・基本の定着を図っていきます。

#### 【指導の改善に向けて】

どの教科においても授業が「よく分かる」と感じている児童ほど、平均正答率が高いことが分かりました。繰り返しの指導やつまづいている内容に立ち戻った指導をすることで、「分からない」ところを「分かる」ようにする指導を徹底し、基礎的・基本的な事項の確実な定着を図ります。また、読み解く力（文章や図表、グラフ等から必要な情報を正確に読み取り、解釈しながら問題を解決する力）に関する内容の正答率は、どの教科においても低い傾向にあります。授業のねらいを明確にし、児童が自力で課題を追究したり、友達と対話したり、考えを発表したりする学習活動を充実させて、授業改善を図っていきます。

裏ページは平成29年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果です。

# 平成29年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果について

6月に全校を対象に「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査(体力テスト)」が行われました。11月の学校日よりもお伝えしましたが、さらに、実施種目「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」についての各学年の詳細を表したものをお示しします。

## 1 体力合計点の平均比較(6月実施) ( )内は昨年度の数値

学年	男女	上小	練馬区
1年	男	26.2 (27.6)	29.0
	女	26.1 (28.6)	29.0
2年	男	34.2 (36.9)	36.8
	女	36.9 (33.6)	37.0
3年	男	44.2 (41.9)	43.5
	女	41.1 (45.1)	43.8
4年	男	48.7 (47.4)	48.9
	女	52.6 (49.2)	50.0
5年	男	54.0 (51.4)	54.7
	女	56.0 (55.1)	55.9
6年	男	58.8 (59.7)	59.9
	女	63.2 (62.2)	61.5

練馬区平均と比較して、下回っている学年が多いですが、校内で昨年度と比較すると2年女子、3年男子、4年男女、5年男女、6年女子で増加しています。  
右の表を見ると練馬区平均と同等もしくは上回っている種目もあることから、数値が著しく低い種目につながる運動の指導改善が重要と考えます。主な項目として「反復横跳び」「20mシャトルラン」が挙げられ、その具体的な指導について、下記を御覧ください。

## 2 測定種目の平均比較

※四角囲みは練馬区平均と同等もしくは上回った数値です。

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
握力	8.4	8.0	10.6	10.8	13.3	11.8	15.2	14.6	17.1	17.7	18.4	19.8
区平均(kg)	9.2	8.5	10.8	10.2	12.8	12.1	14.5	13.7	16.6	16.2	19.1	19.2
上体起こし	11.8	10.5	12.6	13.3	19.1	17.1	19.9	19.6	20.8	21.5	22.2	21.4
区平均(回)	11.2	10.8	14.1	13.7	16.7	15.9	18.6	18.1	20.5	19.6	22.0	20.6
長座体前屈	22.1	24.7	29.6	30.5	29.3	30.1	31.4	36.7	31.9	36.5	35.4	40.2
区平均(cm)	25.0	28.0	27.4	30.6	29.2	32.7	31.3	35.3	33.1	37.8	35.3	41.0
反復横跳び	23.2	22.5	25.4	25.6	34.2	30.1	38.4	37.2	40.9	38.9	43.5	42.3
区平均(回)	26.5	25.2	30.0	28.7	34.4	32.7	37.8	36.3	42.0	39.8	45.2	42.9
20mシャトルラン	15.9	12.7	17.7	16.3	34.8	21.1	36.8	30.4	43.1	33.4	61.4	50.2
区平均(回)	17.3	14.4	27.4	20.8	36.8	26.3	44.1	33.6	53.2	40.5	60.8	46.2
50m走	11.4	11.9	10.8	10.7	9.7	10.6	9.6	9.7	9.5	9.6	8.9	9.0
区平均(秒)	11.5	11.9	10.5	10.9	10.0	10.3	9.6	9.9	9.2	9.5	8.8	9.1
立ち幅跳び	102.8	93.9	122.9	120.1	131.0	118.8	139.7	139.5	155.1	147.2	156.1	160.7
区平均(cm)	109.3	101.9	121.1	113.6	132.2	124.0	140.0	132.8	150.5	143.2	160.0	152.2
ソフトボール投げ	6.5	5.2	10.4	8.1	15.1	8.9	19.5	12.6	20.7	14.9	24.4	17.1
区平均(m)	7.8	5.3	11.3	7.2	15.0	9.0	18.4	11.2	21.9	13.2	25.2	15.2

## 3 全体的な特徴と本校の取組

「握力」「上体起こし」「50m走」「ソフトボール投げ」では多くの学年で区の平均を上回りました。普段の外遊びの様子では、鬼ごっこやボール投げ、固定遊具を使って遊んでいる児童がたくさん見られます。楽しく遊んでいるうちに、体力が高まっていることも一つの理由として考えられます。しかし、「反復横跳び」「20mシャトルラン」では、多くの学年で課題とみられる種目となっています。体育の授業の単元の一つである「体づくり運動」等を通して、俊敏性や全身持久力をより一層高めていく必要があると考えます。体力向上のためには、児童が「体を動かす心地よさを知り、すすんで運動をする」ことが大切であると考えます。本校では、年間を通して各学年が研究授業を行うことで、運動の楽しさや心地よさを味わえるように、授業研究に取り組んでいます。また、外遊びの励行という観点から、平成27年度より中休みを5分長く設定しました。さらに、年に2回の大縄チャレンジ集会を通して、集団で運動に取り組む時間も設定しており、集会前には中休みに全校で一斉に大縄に取り組んでいます。学年が上がるごとに、練馬区平均を上回る数値も増えている傾向にあることから、本校での取組の成果が少しずつ見え始めていると考えられます。今後も、これらの取組を通して、児童の体力向上に努めて参ります。